

平成27年度 学校評価総括表（徳島市内町小学校）

1 学校教育目標 校訓「至誠」の精神のもと、互いを大切にしあい、心豊かにたくましく生きる児童の育成

2 本年度の重点目標：笑顔いっぱい 元気いっぱい 夢や希望に向かって みんなで伸びていく学校

- (1) 命を大切にしよう (2) あいさつをしよう (3) きまりを守ろう
 (4) あたたかいことばが溢れる学校 (5) いっしょうけんめいに勉強や運動に励む学校 (6) 美しい学校

3 本年度重点推進事項

- (1) 子どもの学び合いを大切にした学力・体力の向上
 (2) 安心して学べる学級・学校づくり
 (3) 信頼される学校づくり
 (4) 信頼される教職員集団

4 総括表

領域	評価項目	自己評価			学校関係者評価		次年度への改善点等
		評価の観点	具体的目標	評価及びその理由	学校関係者の意見		
校 経 営	学校経営方針	①重点目標の児童や保護者への周知 ② 達成に向けた具体的な実践	①「内町小学校便り」「ホームページ」「朝会での話」「朝の会」「帰りの会」等で周知する。 ②学校が楽しいと感じる児童の割合を95%以上。	①ホームページや学校だよりに必ず記載したり、朝会等で重点目標に関する話をする事により、保護者や児童に浸透してきている。 ②96%まで向上してきた。	B		○学校だよりやホームページへの掲載のほかにも、児童や保護者の常に目に入る所への掲示やPTA総会での説明等工夫を継続的に行っていく。
	開かれた学校	①情報発信 ②学校・保護者・地域の相互理解と連携の推進	①学校HPの更新回数を増やす。 ②「学校が保護者に出す文書・連絡などはよくわかり適切である」「学級（学校）の様子や学習内容などを、学校便りやホームページなどによってよく知ることができる」で85%以上にする。 ③「学校は、地域と連携して教育活動を進めようとしている」と思う地域住民80%以上にする。	①ほぼ毎日更新できた。 ②文書・連絡については89%、学級（学校）や学習内容については、91%であった。 ③94%で達成。地域と連携協力しての学習や行事が2回実施できた。（防災・戦争体験を聞く会）	A		○文書の配布（お知らせや学年便り等）のタイミングや記述の仕方を更に工夫して、学校で行っている教育活動について理解と協力を得るように今後も努める。
	学級経営	一人一人を大切に作る学級経営の実践	①今年度「あなたが困ったときに、先生に相談できますか。」という質問項目を入れることにより実践の改善に役立てる。 ②「学校は、子ども一人一人を大切に、互いに認め合う学級・学校づくりに取り組んでいる」と思う保護者90%以上にする。	①児童76%で肯定的評価を得たが、23%の児童があまり当てはまらないという結果であった。 ②保護者90%	B	B	○子どもの実態把握に努め、一人一人の教育的ニーズに対応した支援を行っていく。 職員同士で情報交換を密にしながらたくさん目の子どもたちを見ていく。
	教職員の資質向上	授業力向上 児童理解の推進	①わかる授業を展開するため、授業研究会を行う。 ②「わかる授業に努め、基礎的な学習の定着が図られるように取り組んでいる」と思う保護者80%以上にする。	①人権や特別支援（ユニバーサルデザイン）の研究授業や研修会が実施したが来年度も継続的に研究を進めていく。 ②86%で達成できた。	B		○授業のみならず学校生活全体で、子どもたちの話す力（表現力）を伸ばすために校内研修や児童理解を推し量って行く。
	施設環境整備	安全で美しい 学校環境の整備	①施設設備が整備され、安全に配慮ができています。 ②校庭、教室などにごみがなく、花壇に花のある学校にする。	①危険箇所の発見に努め、早急な対応に努めることができたが、改善箇所が残っている。 ②落ち葉の季節などに登校途中で自主的に落ち葉等を拾う児童が増えてきている。 6年生の奉仕作業等の成果である。	A		校舎の外壁の塗り替え等が必要である。 ○安心・安全な学校環境に更にしていくために、計画的に施設面の要望を根気強く行っていく。

自己評価					学校関係者評価		
領域	評価項目	評価の観点	具体的目標	評価及びその理由	学校関係者の意見	次年度への改善点等	
教育	学力向上	基礎基本の定着 家庭での学習習慣の定着	①「勉強(授業)がよくわかる」児童を90%にする。 ②「家では毎日だいたい時間を決めて、勉強や宿題をする」児童を85%以上に、「家庭で毎日決めた時間に勉強している」と思う保護者を85%以上にする。	①児童98%。 ②児童は、86%。保護者は、82% ほぼ具体的数値目標に近づいてきている。	A	○読書の習慣をもっとつける必要がある。 図書室の運営に工夫改善に取り組んでもらいたい。 ○発表仕方のスキルの学習も必要ではないか。	○小集団での話し合い活動の楽しさを実感させるとことや学級での安心感を高めること、話し合いの時間の質と量を工夫する。 ○「学校や家で本をよく読む」に関して、児童は62%、保護者は、56%であったことから学校や家庭での読書の習慣が定着していないことが明らかになった。そのため、読書の時間を確保したり、読書の楽しさをもっと実感できる工夫に取り組む。
	心の教育	感謝の気持ち 思いやりの気持ち 自己肯定感の高揚	①「友達に優しく思いやりのある行動ができていますか。」と思う児童を90%以上にする。 ②「自分のいいところに気付いていますか」と考える児童を85%以上にする。	①児童89%、保護者96% ②児童75% 昨年度より10ポイント上がった。	B	○「内町あったかスマイルツリー」の取り組みはととてもよい。	○道徳教育や人権教育のさらなる充実と体験活動の関連を更に図る。 ○学級学校での児童の活躍の場を増やす工夫や教師の肯定的な声かけ等を担任だけでなく全教職員で継続する。
	生徒指導	望ましい生活習慣の育成 仲間づくり	①「自分からあいさつする」児童を95%以上にする。 ②「交通ルールを守っている」児童を95%以上、「廊下階段を走らず、右側を歩く」児童を65%以上にする。 ③全校でいじめを許さない、させない、見逃さない。	①児童90% 保護者は、80% ②交通ルールに関しては、児童98%、廊下階段に関しては、59%であった。89%の保護者は、ルールやマナーをおおむね守れていると感じている ③毎月「なかよしアンケート」を実施、管理職への報告と対応がとれた。また、アンケートは年間を通して毎月実施できた。	B		○廊下・階段を走らず、右側を歩く児童を増やす取り組みを全教職員で取り組み、そして次年度は、65%以上にする。 ○いじめやトラブルに関しては、早期発見・早期解決に向けて、毎月「なかよしアンケート」の実施を継続していく。
健康・体力作り	早寝早起き朝ご飯 運動習慣の改善や定着化	①「早寝早起き朝ご飯」の重要性を、授業実践や学校からのたよりなどを通じて啓発する。 ②水泳検定、縄跳び検定、駅伝等の体育的行事への参加や外遊びの励行、そして徒歩通学のすすめを行い、家庭との連携を図りながら体力作りに努める。	①早寝早起き朝ご飯の習慣が定着してきている。 ②外遊びに関しては、89%放課後や休日での運動に関しては、77%まで増えてきている。様々な活動を通して、十分ではないが、運動習慣の定着を図ることができてきている。	B	○小規模で陸上の記録(リレー)は素晴らしい。 ○体育館にある陸上や水泳の記録の更新をお願いした。そうすることにより子どもの運動絵の意識も高まるのではないか。 ○休み時間異学年で外遊びをする児童をよく見かける。	○食事の好き嫌いをの割合を減らすために、食育の授業の充実を図り、家庭との連携を強めていく。 ○次年度も各種体育行事の練習に参加する事を呼びかけ、体力向上の底上げを図っていく。	